

授業概要

領域「表現」のねらいで示された「創造性」を豊かに育むためには、子どもの表現と創造性の本質を理解したうえで、子どもに多くの楽しい身体表現の機会を保障することが重要である。本授業では、子どもの豊かな動きと友だちとの関わりを促す遊びや活動について、身体を動かす経験を重ねながら身につけられるよう指導する。また、その経験を踏まえて、子どもの発達に合わせた遊びや活動を考案し、子どもの創造性を育む指導案の立案ができるよう指導する。

授業計画

G：グループワーク、D：ディスカッション

第 1 回	オリエンテーション、創造性とは何か（G・D）
第 2 回	創造性を育む遊び① まねっこ遊びから即興的な表現へ 【遊び】「らかんさん」
第 3 回	創造性を育む遊び② 言葉と身体表現の関係 【遊び】「ポーズしりとり」「おはなしリレー」
第 4 回	身体表現とイメージ① 【遊び】「見えないもの運ぼう」（G）
第 5 回	身体表現とイメージ② 【遊び】「額縁の絵」「言葉とポーズのスケッチ」（G）
第 6 回	音楽と身体表現① 拍子とリズム【活動】ギャロップ、スキップ、タタタン
第 7 回	音楽と身体表現② 童謡と踊り（踊りの技法）【活動】「どんぐりころころ」（G）
第 8 回	「どんぐりころころ」発表会／講評・相互評価（G）
第 9 回	指導案の作成① 踊りづくりの活動の手順 【演習】踊りづくりの指導案の作成
第 10 回	ごっこ遊びと身体表現①楽器を使って【活動】絵本の場面からリズムと踊りを発想しよう
第 11 回	指導案の作成② 創作活動の立案 【活動】第 10 回で行った活動を指導案に書く
第 12 回	模擬保育「座って遊べる手遊び」と「体を大きく動かす遊び唄」／相互評価（G・D）
第 13 回	ごっこ遊びと身体表現②リボンやボールを使って【活動】絵本の場面を踊りで表現しよう（G）
第 14 回	場面の踊り発表会／講評・相互評価（G）【演習】踊りづくりの指導案③の作成
第 15 回	まとめ／【演習】指導案③の作成／まとめレポートの作成
第 16 回	筆記試験

到達目標

- ・即興的な身体表現と創造性の関係について理解できる。
- ・身体表現を伴う遊びや活動の特徴を理解し説明できる。
- ・音楽（リズム）遊び、踊り、まね遊び、ごっこ遊びなど、子どもの身体表現を促す活動を立案できる。

履修上の注意

- ・着用するもの：体操着（名前ゼッケンつき）、上靴、滑り止め付きの靴下 ※その他は初回授業で指示する。
- ・持参するもの：ノート、筆記具、配布プリントを保管するファイル
- ・保育者に必要な表現力を身につけるため、特別な事情がない限り見学は不可とする。（事情がある場合は事前に相談する。）
- ・遅刻は 20 分以内とし、遅刻 3 回で欠席 1 回とする。

予習・復習

予習：前回のノートと資料に目を通しておく。
 復習：授業で行った遊びや活動について、まとめておく。

評価方法

- ・レポート・課題（指導案、まとめレポート）：50%、
- ・発表グループ発表等：30%、
- ・授業参加度（活動への積極性、グループへの貢献度、ノート）：20%

テキスト

- ・教科書名：授業時、プリントを配布する。
- ・著者名：
- ・出版社名：
- ・出版年（ISBN）：